

鶴見区西部

地域高齢者に対する医療
や介護の相談窓口です

地域包括支援センター



せいふ耳寄り情報 Vol.79

■子どもが子どもでいられる街に

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

子どもが家事や家族の世話をすることは、「お手伝い」の一環であればごく普通のことと思われるかもしれませんが、**子ども自身にさまざまな影響**が出てしまうこともあります。

裏面につづく→

子どもたちへ起こりうる影響

ケアの疲れから遅刻・早退・欠席が増えたり、勉強の時間や自分の時間がとれないことで学業・就職への影響がでたり、友人等とのコミュニケーションの時間がとれず関係に影響が出るなど、「子どもとしての時間」と引き換えにケアをしていることがあります。また、周囲から理解してもらえず、いい加減な子として理解されてしまうこともあります。

さらに健康面への影響が生じたり、感情面でも自分ができると思う仕事の範囲を狭めて考えたり、自分のやってきたことをアピールできない等大人になっても影響を受けることがあります。



まずは社会の理解と支援の手を！

家族のケアを担うこと自体は悪いことではありません。そこから得るものも多く、障がいの理解ができるようになったり、家族の絆も深まったり、生活能力が身につくことにもつながります。

しかし、ケアを担うことで自分でも気づかないうちに日常的に緊張感が続き、さまざまな負担や困難を抱えていることもあります。

子どもや若者の場合、介護が「当たり前のこと」と思い込んで、自分が困っていることを認識できず、周囲に聞いたり話すこともなく、いつものこととして過ごしてしまいます。



そのため、**周りの関わりや気づき**が大切です。子どもや若者にとって日常的に会話を通して、信頼できる大人が気にかけてくれることはとても心強いことです。

少しずつ「どんなお手伝いしているの?」「おばあちゃんどう?」など**日頃の状況や、手伝いの内容を聞いてみたりと困っていることに一緒に気づいていくことが大切です。**

ヤングケアラーに対する社会の理解と支援が必要です。

参考：厚生労働省ホームページ「ヤングケアラーについて」、大阪市ホームページ、政府広報オンライン「ヤングケアラー」を知っていますか？ヤングケアラーを支える取組と私たちにできること

相談できる相手につないでいけるように！

介護の必要な家族のことも一緒に考えていくことが大切です。「身近にヤングケアラーかもしれない子どもや若者がいる…」そんなときは下記の窓口へご相談ください。



大阪市鶴見区役所 保健福祉課 子育て支援室

ヤングケアラー相談窓口 06-6915-9933/9107

鶴見区西部地域包括支援センター

06-6913-7878